

Solomon Islands

【ソロモン諸島】

写真・文＝中原 二郎 (JICAソロモン支所 企画調査員)

未来遺産



ドルフィン・ベイで、イルカたちの歓迎を受ける



見知らぬ人にも、友人や家族のように接してくれる温かさが残っている



運動会の一コマ。人生初のリレー競争で、全力で駆ける子どもたち

時折目の前に広がるエメラルドグリーン
の海を眺め、白砂の浜辺に横たわって小説を捲っていたら、いつの間にかうたた寝をしていた。涼風がほんのり日焼けした肌を駆け抜けていく心地よさに、しばし夢と現実との間を行き来する。緩やかな時間と非日常空間が交差する極上の楽園に身を委ねていると、凝り固まった心がじわりとほぐれていく。

道もない。気の遠くなるような豊かな自然の中に、申し訳なさげに簡素なバンガローがポツリと佇んでいるだけである。
陽が傾き、漆黒の夜が辺りを包む。無数の星空が頭上に広がり、静寂を洗う波音だけが耳に届く。星明かりにぼんやりと浮かび上がる島影の輪郭を眺めていると、世界中で自分一人だけ取り残されたかのような錯覚を覚える。モノや情報が氾濫する日常が、思考の隅からこぼれ落ちていく。



b

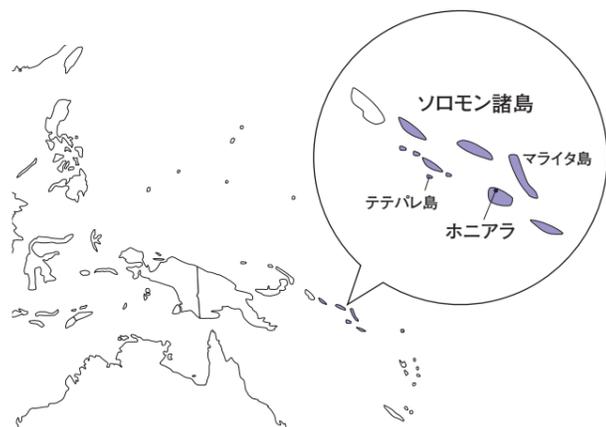


a



c

a. 海沿いの漁村で出会った子ども。透き通るようにきれいな瞳だった
b. テテナレ島周辺の海。透明度の高い海に差し込む日差しが揺らめいていた
c. 中央市場の売り子。ソロモンの女性は本当に逞しい



首都：ホニアラ
 面積：2万8,900km²(岩手県の約2倍)
 人口：52万3,170人(2009年)
 言語：英語、ビジン英語など
 宗教：95%以上がキリスト教
 1人当たり国民総所得(GNI)：910ドル(2009年)
 経路：日本からの直行便はなく、フィジーやオーストラリア、バヌアニューギニアでの乗り継ぎが一般的。
 通貨：ソロモンドル(SBD) 1SBD=約11.2円(2011年8月現在)
 気候：1年を通して高温多湿。首都ホニアラの平均最高気温は32度で内陸部はさらに高い。1~4月が雨期で、短時間に激しく降る。7~9月は雨が少なく、貿易風の影響で過ごしやすい。



テテパレでウミガメの生態調査に同行した。このウミガメは推定年齢30歳



テテパレ固有種のトカゲ。島にはこのほかにも固有種の動植物、鳥類、は虫類が生息する

ソロモン諸島の経済を支えているのは、主に金や木材など天然資源の輸出である。だが、豊かな自然というイメージの裏で、なりふり構わず木材伐採が各地で続けられた結果、森林は破壊され、土壌流出や洪水などの被害を招くようになった。近年では資源枯渇の懸念が現実味を帯びてきている。

ウエスタン州、テテパレ島。島の所有者が補償金などで好条件を提示した伐採会社のオファーを断り、自然保護の方向性を鮮明に打ち出した。この国では数少ない事例である。透明度の高い海に潜り込めば色彩豊かなサンゴ礁と無数の熱帯魚が迎えてくれ、夏にはウミガメの産卵、年中通してイルカの群れやジュゴン

が見られる。手つかずの自然がそこにはある。エコツーリズムが盛んで、ウミガメ生態調査同行ツアー、森林浴ツアーなど、現地人ガイドによる各種アクティビティも用意されている。環境教育が浸透している先進国と違い、開発途上国のへき地では森を失う影響について知る機会はほとんど

ない。「この島はわれわれの誇りだよ」ガイドのトゥーミの、鋭くも柔らかいまなざしが印象的だった。手つかずの自然が残るテテパレのような島々が、これからも訪れる人々の心を和ませることを望んでやまない。



森林浴ツアーでは、ユニークな動植物に出会える

ソロモン料理 石焼きオープンで蒸し焼き 「イモのプディング」



ソロモンは、自然の恵みの恩恵を受けて食材が豊か。首都ホニアラの市場には、新鮮な魚介類、野菜、果物が並べられ、連日活気にあふれている。魚介類でよく食べられるのは、カツオ、サワラ、アジ、貝類など。野菜ではワラビやゼンマイ、モロヘイヤのように粘り気のあるスリッパリー・キャベツが一般的だ。家庭では、キャベツやトマトなどの野菜や魚、肉などをココナツミルク、カレー粉、しょうゆで煮込み、主食のごはんやイモにかけて食べることが多い。

伝統料理は蒸し焼き。たき火で焼いた石を直径1メートルほどの円状に敷きつめ、その上に食材をそのまま、もしくは葉で包んで置き、さらに焼いた石を乗せてバナナの葉か麻袋をかぶせて蒸し焼きにする。近年、都市部ではガスや水道のある近代的な台所も増えたが、屋外に石焼用の調理場も併せ持つ家庭も多い。

石焼き料理でよく作られるのが、すりおろしたキャッサバなどのイモ類をココナツミルクやバナナと蒸す「プディング」。週末用の食事として一度に大量に作る事が多く、食べる前日から石焼きオープンに入れ、一晚蒸し焼きにする。もちよりさらにしっかりとした食感で、中に入ったバナナの甘さがほのかに感じられる素朴な味だ。

キャッサバをサツマイモで代用して普通のオープンでも作れるので、南国の伝統料理の味を試してみてもは。



バナナの葉の上に材料を乗せて包み、熱した石を使って蒸し焼きにする

- 【材料(4人前)】
 サツマイモ5~6個 / ココナツミルク400ml / バナナ3本
- 【作り方】
1. サツマイモを洗い、皮をむいておろし金で粗めにすりおろす。
 2. ココナツミルクは中火で煮てとろみを出し、冷まして三分しておく。
 3. バナナは皮をむき、おろし金で粗めにすりおろす。
 4. 1を少量ずつ茶巾に入れてしぼり、水気を切る。
 5. パットに、スプーンなどでココナツミルクの1/3を流し込む。
 6. 5に水気を切ったサツマイモの半量を約1.5センチの厚さに敷き詰めたら、ココナツミルク1/3、すりおろしたバナナ、ココナツミルク1/3、サツマイモの残り半量の順に重ねる。
 7. アルミホイルでふたをし、180度に温めておいたオープンで約45分焼いたら出来上がり。

編集協力：浅野洋子 (JICAソロモン支所 企画調査員)



ウミガメを引き上げるテテパレのガイドたち。船上の白いシャツの男性がトゥーミ

人々の生活向上につながる 基盤づくりを

部族対立で経済が停滞し、国の開発が遅れたソロモン諸島。JICAは、社会サービス、経済成長基盤、環境・気候変動など人々の生活に直結する分野を中心に、人づくり・体制づくりを支援している。



[上]アウキ市場の建設現場。整備が進めば衛生的に生鮮品を販売でき、消費者の安心も高まる

[下]栈橋の建設現場で現地スタッフとJICA専門家が打ち合わせ。橋の幅を広げることで、乗客の乗り降りや貨物の積み下ろしを効率的に行えるようになる



水資源局の職員と川の測量を行うJICA専門家(右)。収集したデータは、今後の洪水対策に生かしていく

6つの大きな島と約100の小島から成るソロモン諸島。約80部族が4,000のコミュニティに分散して暮らし、集落や部族単位での結束が非常に強い。それ故に、1978年に独立を果たしてから政治家や役人が自身の出身部族を優遇するなど、法と秩序に基づいた公正な政治の実現には、まだまだ課題が多い。JICAは、70年代からソロモンの人々の生計向上のため、インフラ整備の支援や青年海外協力隊の派遣などを行ってきたが、98年末からガダルカナル人とマライタ人の部族対立が激化したため2000年から支援を停止。しかし、03年以降は太平洋諸島フォーラム加盟国のソロモン地域支援ミッション(RAMSI)の派遣により治安が回復したため、04年から支援を再開している。

経済面では、魚、木材、パーム油といった一次産品の輸出に依存してきたが、近年は電池などの原料となるニッケルが発見され、新たな外貨獲得の手段として期待されている。しかし、人口の85%は農村で伝統的な自給自足の生活を送っているため、都市部との格差が拡大。さらに、津波や洪水など自然災害が多い国にもかかわらず、防災対策が進んでいないという課題も抱えている。

こうしたソロモンが持つ背景を踏まえ、JICAは社会サービスの向上、経済成長基盤

の強化、環境・気候変動対策の3分野に重点を置き、支援を展開している。

社会サービス分野で重視しているのは、マラリア予防。部族対立による混乱で対策が思うように進まず、ホニアラは一国の首都でありながらマラリアの高感染率を記録してきた。そこでJICAは、「マラリア対策強化プロジェクト」を07年に開始し、医療従事者の能力向上を支援。その結果、重症患者への診察サービスの質が向上した。さらに今年スタートしたフェーズ2では、保健省や州の保健局の職員が、罹患率などのデータベースや活動報告書などをウェブサイトで共有できるシステムの構築などを支援中。また、コミュニティごとに、蚊帳の使用や蚊の発生を防止する環境づくりなど、住民を対象にマラリア予防啓発活動を実施していく。

また、経済成長基盤分野では、首都から北東に位置するマライタ島のアウキ市場の整備と栈橋の修復を無償資金協力で支援している。アウキ市場には島内とれる農産物や魚などが集まるが、利用者数に対して市場の大きさが十分ではない。さらに、屋根がないため、直射日光や雨ざらしの環境下で魚などの生鮮品を地面に並べて販売していたりと、衛生面への懸念も多かった。JICAはこれらの問題を解決すべく、市場の面積を拡張し、屋

根や水道設備、販売台などの設置を支援。市場を効率的に機能させることで、島民の生活向上を目指している。また、アウキ市場に隣接し、首都から生活物資を運ぶ船が到着する栈橋は、老朽化が進んでいる上、幅が狭く、船が集中する週末には乗客と貨物の荷降ろしで大混雑する。JICAは栈橋の修復を通じて他島との流通経路を確保し、島の経済活性化を支援している。

環境・気候変動分野では、2010年からソロモンとフィジーを対象に「大洋州地域コミュニティ防災能力強化プロジェクト」を実施。ソロモンでは、人口の9割が沿岸部や河口部に住む。毎年、集中豪雨などによる洪水で家屋の浸水や人的被害が発生しているにもかかわらず、気象情報が住民まで伝わるシステムがなく、人々の防災意識も低い。そこで、国家災害管理局と気象局・水資源局の職員への研修を通じて、警報などの災害情報を地方部まで早期に伝達する体制づくりを支援。また、コミュニティでワークショップを行い、防災計画やハザードマップの作成を通じて、住民たちが自分たちの判断で災害に対応できるように、防災意識の向上を目指している。

さらに、ガダルカナル島を中心に20人以上のJICAボランティアが派遣され、教育や農業、看護など、幅広い分野で活動している。



[左]住民のボランティアグループが蚊帳の使い方を実演。識字率の低い村では、演劇などでマラリア予防の重要性を伝える
[右]看護師や理学療法士など複数の医療関係者がチームでリハビリテーションを行う「チームアプローチ」について学ぶ研修会が開かれ、ソロモンのほか、バブアニューギニアやフィジーなどからも青年海外協力隊と担当省庁の職員が参加した